

☆中 国

標準化 繊維業界、5年で828件の標準を制定・修訂

2015年全国繊維標準・計量工作会議が12月9日に北京で開催され、全国から繊維標準化先進担当者や先進企業代表などが会儀に参加した。大会では「第12次五カ年」繊維標準・計量作業の先進グループ、先進個人、優秀論文に対して表彰を行った。

主要発言者の発言ポイントは以下の通り。

<工業・情報化部科学技術司の韓俊副司長>

- ・繊維分野における標準化作業は大きな成績を収めている。
- ・標準化作業は作業量が多く、複雑であり、繊維業界の標準化は、中国紡織連合会の指導の下で行われている。基礎材料、基礎レベルの設計、工業製造だけでなく、国際標準への転換分野でも十分で着実な進展を見ている。

<中国紡織工業連合会の孫瑞哲副会長>

- ・「第12次五カ年」以降、繊維の標準化は、産業の質の向上や消費者の繊維製品に対するニーズの向上を満足させることを出発点とし、標準の修訂を中心に進めてきた。
- ・技術組織体制の整備と作業手順の最適化を進め、標準体系の構築、国際標準化の推進、標準の普及や実施などの面で大きく進展した。
- ・この5年の間、業界全体では828件の標準が制定・修訂された。
- ・「第12次五カ年」期間、多くの技術委員会が新たに設置された。現在、業界全体の標準化技術機構の総数は28で、2,000名近くの標準化専門家が委員に招かれている。対象分野は広く、それぞれを代表して業務に熟練した標準化専門の技術グループが形成されている。
- ・各標準化技術機構は国際標準化作業に積極的に参加し、中国標準の国際化は大きく飛躍した。対応する国際標準への転換率は77.68%に達している。
- ・企業の標準化作業への参加意識は強まっている。国と業界の標準化を積極的に引き受け、国際標準の起草作業にも参加し、その標準化作業能力とレベルが向上している。
- ・「第13次五カ年」計画における標準化は以下の通り
 - ①「第13次五カ年」は中国の繊維強国建設にとってラストスパートの段階で、繊維標準化は、産業の質の向上やレベルアップと自身の改革の深化という二つの重責に直面している。
 - ②標準化作業は産業発展ニーズに符合することをその方向性とし、消費者の安全を保障することを忘れてはならない。

- ③標準化により統一市場を形成することを目標とし、市場への合致、システム協調、国際連携を指向する標準体系を確立することが重要である。
- ④政府主導による標準制定と市場による標準制定が共同発展し、共に組み合わさる標準体系と管理体制を次第に形成し、繊維「第13次五カ年」達成と繊維強国建設に向けて、重要な技術的サポートを提供する。

繊維業況

綿花政策の影響を受ける綿紡企業

政府の綿花政策が、国家備蓄政策から目標価格に基づく所得補償制度に変更され2年が過ぎたが、原料の制約から綿紡企業は依然苦戦を強いられている。赤字が深刻で、操業を停止する企業も現れていると報道されている。

国家の買い上げ備蓄時代は、国際綿花価格に比して、国内の国家備蓄放出価格が極端に高く、綿糸価格も値下げ傾向にあったため、綿紡企業の採算が悪化した。

現在、目標価格が実行されているが、綿紡企業は依然苦戦を強いられている。その要因として以下が指摘されている。

- ①価格が低下しているものの、新疆綿の品質が劣り、依然輸入に依存している部分が多いこと。本年度の新疆綿は長さ27mm以下の割合が多く、強度も足りないという。
- ②海外綿花のコストが高い。政府が厳格に割当をコントロールしているうえ、関税がかかり、加えて長距離輸送コストがかかる。

この結果、採算の悪化から操業を停止する企業が増加している。また、東南アジアに工場を建設する企業も増加していると伝えられている。